

# 民族音楽学習を通じた 音楽アイデンティティの形成に関する研究

## — 中国朝鮮族を事例として —

LI Naqing

音楽は私たちの生活において大きな役割を果たしている。言語、宗教、慣習などと同様、音楽は人間がある集団への帰属意識を確認する方法のひとつである。集団への帰属意識によって、音楽的学習が展開され、音楽アイデンティティが形成されるのである。

「中国朝鮮族」は政治的または法的に中国国籍を持つ「中国人」でありながら、血統的には「朝鮮族」で、国家と民族においては二重のアイデンティティを持っている。本研究では中国の延辺朝鮮族自治州に居住する朝鮮族(本論では「中国朝鮮族」と称する)を対象に、社会学的視点から、民族性の変遷とともにその中で民族の成員がどのような音楽学習を通してどのような音楽アイデンティティを形成または変容していったかを分析・考察した。中国朝鮮族は歌舞にたけていて、自文化音楽はその内容・形式ともに豊かで悠久なもので、民族文化の中では大きい位置を占めている。中国朝鮮族の歴史の変遷とともに、その音楽アイデンティティの形成過程を分析することは、価値があると思われる。

中国朝鮮族は、中国という大国にマイノリティとして生活しながら強い民族意識を保ち、民族音楽においても強い誇りと継承意識を示している。親をはじめとする家庭からの影響が大きく、教育を重視する民族の風習にちなみ、学校での民族音楽活動を通じた教育による高い民族意識が、音楽を含む民族文化を維持・継承できるよう一役を担ったと思われる。また社会と政治の運動により、音楽アイデンティティをも見失う危機に陥った時期もあるが、その葛藤と苦心が新しい音楽アイデンティティを築き上げたこともあったかと思われる。

現代においては、近い国境の地に母国先祖の国(韓国、北朝鮮)が存在し、またその他の外国との交流が進むにつれ、地域共同体への依存が薄くなり、家庭と学校の教育機能も低下する

傾向である。この様な中で、中国朝鮮族の出稼ぎ・留学などによる人口移動が社会現象として発生し、インターネットなど先端メディアの影響も強く見受けられる。中国朝鮮族の音楽アイデンティティはこれからも更なる複雑な変容の途を歩むことであろう。

本論の要約として以下のことを述べたい。

① 中国朝鮮族の音楽アイデンティティは、強い民族意識に支えられて形成されていることが明らかになった。民族の伝統文化を継承していく中で、同化と妥協と反抗と苦悩の葛藤を重ね、その強い民族性が音楽アイデンティティの形成を支えたと思われる。

② 中国朝鮮族は、前項での特質的的民族性ゆえに、マイノリティ文化とりわけ民族音楽を保存・継承・発展させることができた。中国朝鮮族の音楽活動においては伝統音楽が基盤になっていたこと、またその基盤が比較的堅実していたことが特徴である。西洋音楽の流入もあり、何よりも移住国の中国の共産党政府の文化施策の影響を大きく受けながらも、その影響のもとで中国朝鮮族にしか属しない新しい音楽を作りあげることができた。これが中国朝鮮族の音楽アイデンティティ形成の特質である。

③ 本論では社会学的視点をを用い、主に民族性の変遷とともにその中で民族の成員がどのような音楽学習を通して音楽アイデンティティを形成または変容していったかを分析、考察した。中国朝鮮族の音楽アイデンティティは、本論が分析枠組みとして仮設的に提示した、「学校」「社会」「家庭」「地域」「メディア」が複層的に影響しあって形成される。本論文での分析枠組みを、音楽アイデンティティ形成過程の仮設的結論として提出する。

④ 中国朝鮮族の音楽アイデンティティは、民族性を横軸に音楽性を縦軸にした4タイプに分類できる。

- ・民族音楽型(Aタイプ)
- ・多文化音楽型(Bタイプ)
- ・グローバル音楽型(Cタイプ)
- ・グローバル民族音楽型(Dタイプ)

すなわち、「民族性単一化」と「民族多元化」の社会的文脈と、民族音楽と多文化音楽の社会における音楽的文脈の複雑なせめぎあいから形成される。